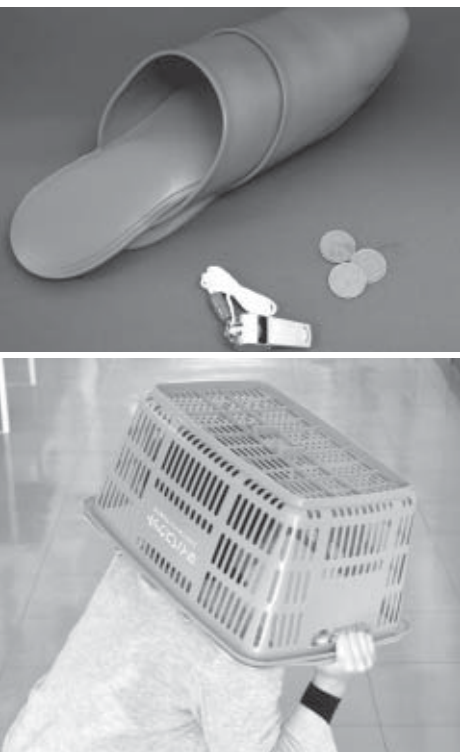




皆さんも、災害に備えてさまざまな物を準備していると思います。阪神・淡路大震災のとき、約35,000人ものが生き埋めとなり、動けない状態となりました。

そんなときに役立つものは「笛」です。助けを呼ぶ大きな声はいつまでも続きます。また、生き埋めの状況によっては、声を出せない場合もあります。そんなとき、笛は所在を知らせる大切なものとなるのです。

また、避難するときに割れたガラスで足をけがしないように、「スリッパ」なども役に立ちます。「10円玉」は、携帯電

話が使えず公衆電話を使うときに役に立ちます。皆さんの備えの中に、ぜひ加えてください。

次に、スーパーマーケットで地震が発生したときは、「買い物カゴ」を頭にかぶってその場へうすぐまわってください。買い物カゴは強度があり、頭を守ってくれます。

さらに、一時的に避難する場所の一つとして、「ガソリンスタンド」があります。阪神・淡路大震災のとき、ガソリンスタンドで焼け止まりになったというところもあります。ガソリンスタンドは、火にも地震にも強く設計され建てられています。

あなたは知っていましたか？

自主防災組織リーダー養成研修会の中で、さまざまな話を伺いました。防災士である仙南消防本部の消防士、中沢玄さんの話の中に、10「知ってよかった」クイズがありました。当たり前の問題もありましたが、「なるほど」とあらためて知ることもありました。このクイズの中から、いくつかをご紹介します。

伝言ダイヤル

自主防災組織リーダー養成研修会では、NTT東日本宮城支店より設備部災害対策室長の山谷哲美さんを招き、災害時の情報通信についての話も伺っています。

その話の一つに、災害用伝言ダイヤル「171」があります。災害が発生すると、被災地に安否を確認する電話が集中するため、電話がつながりにくくなります。そんなとき大いに役に立つのが、NTT東日本の災害用伝言ダイヤルです。

まず、「171」をダイヤルし、録音は「1」、再生は「2」を押します。

次に、「被災地の方はご自宅の電話番号を、被災地外の方は被災地の方の電話番号を、市外局番からダイヤルしてください」という音声ガイダンスに従って、録音および再生を行います。

なお、毎月1日・15日のほか、1月1日～3日、防災週間などにおいて、体験利用ができますので、皆さん、ぜひ体験してみたいかがでしょうか。

詳しくは、NTT東日本（0120-980-430）までお問い合わせください。



自主防災組織リーダー養成研修会で学ぶ 一番大切なことは、人材を育てること

10月24日、白石第二小学校を会場に、自主防災組織リーダー養成研修会を開催しました。

本年度で4年目となるリーダー養成研修会には、65の自主防災組織から69人の皆さんが参加しました。

この研修会は9時30分から1時間の昼食を挟んで16時までの長丁場。それでも、参加した皆さんは熱心に講師の話に耳を傾けていました。

本市では、一組織5人のリーダーを養成するという目標を掲げています。

■上原自治会自主防災会
石川 照代さん



何度か防災研修を受講しましたが、丸一日は長いと感じました。それでも今回の研修は、大変になりました。

ただ、実際に災害が発生したときに、この研修がどの程度役に立つのかが心配です。回を重ねて身に付けることが、これらの防災のために大切であると思います。

■大平5区自治会自主防災会
佐久間義昭さん



AEDには触ったことがありませんでした。今回講習を受けたことで、急に倒れた人を助けられる自信ができました。

地域の役員として活動していますが、宮城県沖地震に備えてさらに意識を高めていきたいと思っています。

■西益岡地区自主防災会
齋藤 安男さん



近い将来、必ず発生すると言われていた宮城県沖地震に備えて、今日一日とても勉強になりました。

自治会での集まりがあるたびに、防災について話し合いをもち、1人でも多くの人に伝えていきたいです。

■おわりに、防災と減災

近い将来、必ず起きると言われる宮城県沖地震。この地震に備え、宮城県内はもちろん、近隣の地域でも自主防災組織の結成を進めています。

また、何年か前のテレビドラマなどでも、大都市を大地震が襲ったという想定で、病院を舞台に大規模災害の恐ろしさを伝えていきます。

さらには、世界各地で大地震が発生し、大きな被害をもたらしています。

行政が行う災害に対する備えは、避難場所となる学校や公共施設の耐震化や、消防設備や救助機材の購入など、災害が発生したときに、被害を最小限度に防ぐ「防災」対策です。

それに対して、自主防災組織が行う活動は、災害が発生したときに被災者を1人でも減らす「減災」が目的となっています。

地域の被災者を減らすためには、避難経路や危険箇所などの防災診断や、過去の災害状況の聞き取り、住民の集合場所などを地域の皆さんとともに行うことが必要ではないでしょうか。

今回、取材を行った大平地区では、公民館の文化祭に合わせて避難訓練を行いました。

このように、皆さんの地区などでも、地域行事と合わせて楽しく、そして真剣に訓練を行ってみてはいかがでしょうか。

また、各家庭での備蓄品は、あらかじめ災害時の備蓄品とするのではなく、日常生活の中で備えるのではなく、スーパーから無料でもらえる水をこまめに補充することで、常時2リットルのペットボトルを3本備蓄することができま。また、特売のときにカップ麺やオーブナー付きの缶詰などを普段より少し多めに買うことで、自然に備蓄することができま。このように、工夫すれば普段の生活の中で簡単に備蓄ができます。

自主防災組織を結成することはとても大切です。そして、本当に困ったときに地域の皆さんが協力して何ができるのかを、日ごろの自治会活動の中で見付けてほしいと思います。

愛する故郷と、大切な家族を地域ぐるみで守るために。

特集「地域ぐるみで守る」 おわり